

## 令和5年10月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和5年10月2日(月) 11時00分～12時05分  
場所 市役所2階 第1委員会室  
出席 市政記者クラブ9社 13名

### 会見内容

#### 1. 話題提供(5項目)

##### はじめに アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本について

- 議題の前に、ATWS2023北海道が無事に終了しましたので、報告させていただきます。
- ご案内のとおり、ATWS2023北海道の開催のきっかけがここ釧路でありました。2017年にATTA(アドベンチャートラベル・トレードアソシエーション)のシャノン会長が釧路の阿寒湖畔に来たことがきっかけとなり大会の開催につながりました。
- ATWSの開催前に行われた「プレサミットアドベンチャー」において、釧路地域では3つのコースが行われ、23名の方にお越しいただき、フィッシングやアイヌ文化を体験いただきました。
- 私はATWS2日目のオープニングセレモニーに出席し、シャノン会長をはじめ役員の皆様と懇談もできました。しっかりとこういったネットワークを活用していきたいと思っています。
- あわせて、今回初めて「ポストサミットアドベンチャー」としてサミット後にコースが設定されました。釧路地域には影響力のあるメディアの方8名に来ていただき、その方々が、トレッキングなどを行い、様々なところを周りました。岸壁炉端では「ローカルだけれどもとてもおいしい」と楽しんでいただきました。
- 私は全てのコースに参加したわけではないですけれども、様々なことに深く質問をしていただく状況でありました。私どもは、出来るだけたくさん見ていただくようコース設定していただいていたところですが、一つ一つのことに大変興味を持っていただいていたことで時間が足りませんでした。コースを飛ばすくらい深く関心を持っていただいたことが非常に印象的でしたことから、表面的なことのみならず、深くいろいろなことを発信していくことが重要だと強く感じたところでした。
- あわせて、コミュニケーションとしての英語について、英語の標記が少ないことがあり、深く知っていただくためには、英語力が必要になってきます。一朝一夕にはできませんが、しっかりと対応していかなければならないものと感じました。
- 猛禽類医学研究所も大変興味を持っていただき、そこでは、齊藤先生がフランス語で対応し、フランスの方は大変喜んでいました。また、猛禽類医学研究所の副代表の渡邊さんはアメリカ留学しており英語ができますし、その他ドイツ語ができる方もいました。8名の方は、フランス、ドイツ、カナダ、アメリカ、インド等の方でした。ドイツ語で説明した時はここで母国語で説明されたことに非常に感動していただきました。
- 総じて、非常に深い関心を持っていただいたことから、良い形ができたと思っており、ここをスタートとして前に進めていきたいと考えているところです。

##### 1 姉妹都市60周年における鳥取市・湯沢市訪問団の来訪について

- 話題のはじめは、姉妹都市60周年における鳥取市・湯沢市訪問団の来訪についてです。
- 60周年記念ということで、8月には「鳥取しゃんしゃん祭」に合わせ鳥取市を訪問しました際のオープニングでは、釧路鳥取傘踊り保存会がスタートを飾るなど、非常に友好

的なつながりを進めてきたところです。

- 釧路市においては、10月14日（土曜日）から開催いたします「釧路大漁どんぱく」にあわせて鳥取市・湯沢市から両市長や、市議会の方を含めた訪問団の方々が来ていただけるということです。鳥取市からは「しゃんしゃん鈴の音大使」などの鳥取しゃんしゃん祭の関係者の方や小学生レポーターが、湯沢市からは商工会議所会頭や観光物産協会のみなさまに来ていただき、様々な交流を深めていこうと考えております。
- 14日（土曜日）の釧路大漁どんぱくでは、「姉妹都市提携60周年記念ステージ」と銘打ち、両市の紹介や、「しゃんしゃん鈴の音大使」による踊りを披露するほか、姉妹都市を知ろうということで、釧路市で開催した絵手紙コンテストの鳥取賞・湯沢賞の受賞者が、両市を訪れた際の感想の発表を行います。
- 60周年の交流を通じて、しっかりと次につなげていけるよう進めていきたいと考えております。

## 2 「くしろ男女いきいき参画表彰」の受賞者決定について

- 次に「くしろ男女いきいき参画表彰」の受賞者決定についてです。
- 今回の受賞者は、不登校の子をもつ親同士を繋ぎあわせる「不登校の親どうして話そう会」を主催するなど親の居場所づくりを行っている「くしろ不登校の子とくらす親の会くるむ」と釧路市連合町内会の副会長を務めながら、女性部幹事会では代表を務め研修会や女性の集いの企画運営を主導している「板 明子（いた のりこ）」様、この1団体とお一人に決定いたしました。
- 今回で8回目となる「くしろ男女いきいき参画表彰」でございますが、女性活躍の推進や、子育てしやすい環境の充実にご尽力いただいているほか、女性の観点・視点を活かした地域の活性化などの活動をしている方々やそれを支援している方々の表彰であります。
- 表彰式は、10月22日（日曜日）午前10時30分からMOO3階にある、釧路市男女平等参画センター「ふらっと」で開催します。その日には「ふらっとフェスタ」も開催しております。
- 現在中間見直しを行っている「くしろ男女平等参画プラン」については、しっかりと促進させていき、「参画表彰」も機会に結び付けていきたいと考えております。

## 3 「第47回北海道都市問題会議」の開催について

- つづいて、北海道市長会の行事である「第47回 北海道都市問題会議」を釧路市で開催します。
- ベースは北海道市長会ですが、北海道都市地域学会や開催市が主催で、それぞれの開催市の課題や将来像について時代背景を含めてシンポジウムを開催し、専門家の意見も聞きながら議論するとともに開催市の魅力を発信すること等を目的に毎年各都市で開催しています。
- 昨年度は紋別市で行われ、今年は釧路市で10月25日（水曜日）に釧路市観光国際交流センターにて開催します。
- 釧路市のテーマは「災害に強く環境と調和したインフラの充実～ 生命（いのち）を守るしなやかなまちづくり～」と題し、大規模自然災害に対する強靭さを持った社会の構築や災害対策に向けたインフラ整備について識者の方々の意見を頂きながら考えるものです。
- 10月25日（水曜日）午後2時から開会し、基調講演、パネルディスカッションを実施します。基調講演の講師は株式会社セコマの丸谷 智保（まるたに ともやす）会長に登壇いただきます。丸谷会長は北海道胆振東部地震によるブラックアウトの際、95パーセント以上のセイコーマートの営業を継続させ、優れたBCP（業務継続計画）対策が全国か

ら注目を集めております。この基調講演をしていただいた後、パネルディスカッションを行います。

- 参加料は無料で、事前申し込みも不要です。手話通訳も配置いたしますので、是非、多くの方に来てほしいと思います。

#### 4 10月のイベントについて

- つづいて、10月のイベントについてです。
- 最初のイベントは「第20回釧路大漁どんぱく」です。10月14日(土曜日)、15日(日曜日)の二日間、釧路市観光国際交流センター前庭特設会場にて行います。例年9月に開催していましたが、豊かな海づくり大会の影響で1か月遅れての開催となりました。
- 10月12日(木曜日)には「釧路 すえひろ はしご酒大会」が4年ぶりに、開催されます。
- 今年は20回目の節目の年であり「くしろのいい味グルメブース」として釧路の魚や特産品をPRするグルメブースを開催するほかオータムフェストでも大人気であった「灯台つづ煮串」などが楽しめます。
- また、以前も感動的なライブをしていただいた「宇崎竜童」さんの弾き語りライブや、NHKの「天才てれびくんスペシャルステージ」などを企画しています。
- メインイベントである「釧路大漁どんぱく花火大会」が14日(土曜日)に開催されます。今年は、日没の関係上、例年よりも30分早い、午後6時30分から7時30分までの1時間を予定しています。
  
- つづいては、まりも祭りについてです。
- 10月8日(日曜日)から10日(火曜日)までの三日間、「第74回まりも祭り」が4年ぶりに通常開催されます。
- 8日は例年同様、マリモ研究室によるマリモの講演会を行い、翌9日には、「まりもを迎える儀式」が4年ぶりに復活し、全道各地からアイヌの方々が集まり、「タイマツ行進」を行うほか、民族舞踊の競演が行われます。
- 10日(火曜日)の「まりもを送る儀式」では、アイヌ政策推進交付金を活用して20年ぶりに制作された丸木舟を初めて使用します。丸木舟は、一本の木をくり抜いて製作したもので、林野庁根釧西部森林管理署様のご協力により高さ24メートル、直径約1メートルのカツラの太木を調達できました。20年前に、教えてもらっていた人が今回は講師役となり、製作経験のない工芸家たちに技術継承を行いました。
- こういったことを行ったまりも祭りでございます。

## 2. 質疑要旨

### (質問)

- ・アドベンチャートラベルについて、市長の説明では英語表記が少ないという指摘があり、今後対応していきたいとのことですが、具体的に英語の案内板を設置していくような検討をされているのですか。

### (市長)

- ・英語表記については、案内板もありますが、もう一つはQRコードの活用があります。情報を更新していくという問題がありますので、そこの扱い方になります。もちろん必要なところには看板の設置を進めていきますが、デジタル社会ですのでデジタル技術をしっかり活用していきます。内容が深くなりますと文字の量が増えてきますので、そこはしっかりと相談しながら進めていきます。

(質問)

- ・猛禽類医学研究所では、フランス語やドイツ語での解説があったとのことですが、そういった意味では、QRコードを使つての情報発信は英語だけではなく多言語で行っていくという理解でよろしいですか。

(市長)

- ・必要になってくると思っています。今まで多言語といいますと英語はもちろん、韓国語や中国語などの来ていただいている方々を対象にしてきましたが、今後どのように進めていくのかを考えたときに、世界の公用語の基準が出てくると思います。我々の考えている一般常識と世界標準に若干のずれがありますし、ATの取組は世界標準の中でターゲットを定め進めていくものです。世界を見据えた中で、まずは英語を進めていくこととなりますが、現実のことと合わせて多言語化が必要になってくると思っています。

(質問)

- ・今回メディアの方に来ていただき、これから本格的な誘致やPRを進めていくと思いますが、具体的に「どこに売り込んでいく」や「どんなPRをしていく」というものがあれば教えてください。

(市長)

- ・今回の8名の方、また前段の23名の方も含めて、リアルタイムで様々な発信をしていただいたところですので、この方々とコミュニケーションや連携を取りながら進めていければと思っています。我々はATWSがスタートと思っています。進め方についてはいろいろとご意見を伺いながら進めていくものと思いますので、シャノン会長や役員の方々も含めコミュニケーションをしっかりと取り、人間関係を大事にしながら戦略を立てていきたいと思っています。

(質問)

- ・ひがし北海道クレインズとの協定解除について、まずは市長の受け止めと今回の協定が釧路市にとってどのような良い効果があったのか、また今回は解除になりましたことから、課題をどのようにとらえていますか。

(市長)

- ・協定が破棄となったことは、これまでの経過を踏まえると残念だと思っています。日本製紙クレインズが廃部となるなか、田中代表を中心に皆様の力をいただきながら進めてきたことは本当に感謝しています。しかしながら、いろいろなことが起こる中で連絡が取れなくなってしまいました。これまでのご尽力は重々承知した中で、経営の責任がある方と連絡が取れなくなってしまったことを我々はとてつもなく重たく受け止めています。どんな状況であろうともお話ができる環境が一番重要です。このことから破棄させていただきました。主旨としてこういうことから協定破棄となっていることにご理解いただきたいと思っています。

そのうえで、街にプロチームを持っていきたいことや、氷都くしろとしてアイスホッケーの社会人チームや子供たちのチームがたくさんありますので、これまでの歩みや培ってきたものを継続させていきたいという思いがあります。ここはアイスホッケー連盟とも相談していきながらどのような展開にしていくのか考えたいと思います。もちろんプロチームを持つことについても12月末の締め切りに向けた相談を行っているところです。

(質問)

- ・クレインズの選手たちは、街の盛り上げに活躍いただいたと思いますか。

(市長)

- ・もちろん思っています。チームを残していただき、選手の方々も様々な取組を進めていただいた期間は大変ありがたいことです。子供たちにとっても良い形になったと思っています。

す。我々が課題と思ったことは、何かあった時に連絡が取れなくなったことのみです。

(質問)

- ・北海道ワイルズが協定を結びたいと希望していますが、今後結ぶ予定や条件などがありましたら教えてください。

(市長)

- ・氷都くしろとしてアイスホッケーを愛する方々は年齢層も広く、アイスホッケーに対して熱い地域と思っていますので、アイスホッケーチームを持つというステータスは大事にしていきたいと思っています。その手法については、釧路アイスホッケー連盟と相談して決めていきたいと思っています。それが2チーム、3チームとなるかもしれません。基本はこの地域の中に氷都くしろにふさわしいアイスホッケーの環境を作っていきたいということです。その中で、プロを目指すチームが1チームなのか複数出てくるのかはわかりませんが、どのように支援していくのか連盟と相談し進めていくことが重要と考えています。ワイルズをどうするというのではなく、アイスホッケーを頑張れる環境を作っていきたいと考えています。

(質問)

- ・それに向けて釧路が一体となることは重要ですが、現在はワイルズと協定を結ぶことがアジアリーグの参戦に近づくと思いますが、ワイルズに対してはどの様に考えていますか。

(市長)

- ・何度も言いますが、氷都くしろとして子供たちも頑張っている中で、アイスホッケーについて目標を掲げていく取組を地域として行っていくことです。その手法の一つにワイルズがあれば進めていきますし、他のチームがあれば進めていきます。ですから連盟と相談し、考え方を示しながら進めていこうと思います。ただし、アジアリーグへの申請という時間的な決まりがありますので、そこを意識しながら決めていきたいと思っています。

(質問)

- ・申請まで2か月となりましたが、市としてはどのように進めていきますか。

(市長)

- ・細かい所は決まっていますが、期限がありますのでそこを踏まえて進めているところです。

(質問)

- ・具体的にはまだ決まっていないということですか。

(市長)

- ・まだ固まっていません。状況はこれからもお話していきます。

(質問)

- ・クレインズとの連携協定の解除について、2019年に協定を結び、4年後に解除となりました。市としてクレインズのPRなどを行ってきましたが、新しいチームと協定を結ぶ際の参考のため、事業の効果を検証する考えはありますか。

(市長)

- ・様々な事業を進めていくにあたり、検証していくことが重要であることはご指摘のとおりだと思います。ただしネックとなるのはコロナ禍であったということです。観戦制限などがある中で、どのように次に活かしていくのかということです。有事の際の事例にはなりますが、なかなか参考になりにくいと思っています。そのうえで、選手の方々が子供たちの指導などで地域に出てくれたことは非常に成果がありました。しかし、このことがどう経営に結びついたのかは難しいところがあります。選手たちの取組については、地域の皆様の声を聞いておりますが、経営との結びつきについては検証の仕方は難しいと考えています。

(質問)

- ・コロナ禍でなければ、今後の参考になることはありましたか。

(市長)

- ・あったと思います。半分しか観客を入れることができないなど制限がありましたので、いろいろな取組の中で人が増えてきたなどの検証結果は出しようがありません。

(質問)

- ・今回はクレインズの赤字から始まり、給与遅配からワイルズというチームができたと思います。今回の件で、地域でアマチュアスポーツのプロチームを支える難しさが露呈したと感じています。その中で、検証は難しいとしても、釧路市としてプロモーションや子供の教育を協定の中で行ってきましたが、行政が取り組んできたことの評価は市長としてどのように考えていますか。

(市長)

- ・経営の観点からの検証が難しいという話であり、今まで取り組んできたことを顧みないということではありません。つまり、コロナ禍で入場制限や試合の中止もあり、取り組んできたことが経営にどれだけプラスになったのかが読めないということです。しかしながら、協定を結んだ中で行っていただいた事業は参加いただいた方の声をいただいております。子供たちにとっても愛着を深めてきたと思っています。あわせてアイヌ文化との連携なども行っており、こういったことをしっかりと評価していくことは重要と思っています。プロスポーツを地域で支えていく難しさについては、ご指摘のとおりだと思っています。その中でも、他の地域やスポーツでコロナ禍を乗り越えたところがありますので、そういったことを踏まえて進めていくことが必要だと思います。アイスホッケーだけが特別だとは思っていませんので、どのように収益を上げていくのかまで地域として入り、協力しながら進めていくことがこれから必要になってくると思います。

(質問)

- ・他のプロスポーツやアイスホッケーの他のチームを踏まえながらということですが、何か参考にしている動きはありますか。

(市長)

- ・どのように進めていくかというところでの対象がまだ決まっています。まずはそこを連盟と相談しながら方針を固めることを最優先しなければなりません。そこを早急に進め12月までに申請しなければならないという現実がありますので、しっかり進めてまいります。地域の中でもバレーボールやバスケットボールなどが進んでおり、先行事例はたくさんありますので、まずは方針を決めていきながら、いろいろな形を模索していきたいと思っています。

(質問)

- ・これまでの市の取り組みが十分だったかを振り返るとどのように評価されますか。

(市長)

- ・経営についての責任は会社の方にありますので、行政としてどれだけ情報を収集し、中に入っていくのかは難しい話だと思います。ただし、コロナ禍でこんなに長期にわたり規制があった背景もありましたが、結果としてこのような形になってしまったことは、しっかりと踏まえていくことが必要だと思っています。責任については、経営体としてのものとり組みとしてのものがあり、難しいと思いますが、結果をしっかりと踏まえていくことは重要と思っています。

(質問)

- ・この先トップリーグに参加するチームを支えていくには、これまで以上にコミットしていく形を考えているのかなど今後の姿勢はいかがですか。

(市長)

- ・まずはしっかりとの方針があり、自治体としてどのような覚悟を持って進めていくかということです。コミットしていくことを考えたときには、中途半端なコミットだと逆におかしいですし、がっちり入っていくとどうなるのかということがありますので、大きな課題になってくると思います。当然経営については、経営者が考えていくことだと思っていますので、我々はアイスホッケーのすそ野をしっかりと広げていくことが最優先であり、その中のプロチームを持つという一つのステータスのところを重視しているところです。ですから、コミットの仕方も連盟と話をしながらどういう形にしていくのか明確にしていくものと考えています。今の段階ではそこまでいっておらず、どういうチームで、何チームで行くのかなど早急に決めていく段階でありますので、近々示しながら進めてまいります。

(質問)

- ・市長は2チーム、3チームの可能性を言及されましたが、当初新しいチームを設立する話が出ていましたが、今はその路線はないのですか。

(市長)

- ・先ほども言いましたように、方針がまだ明確ではありません。

(質問)

- ・協議の場での新チームの話は現状出てないのですか。

(市長)

- ・出てないということではありません。

(スポーツ課長)

- ・選択肢の一つです。

(市長)

- ・2チーム、3チームも可能性の話であり、固まっていない状況です。

(質問)

- ・ワイルズの話とクレインズの協定解除の話は出ていますが、新チームの話が出ていませんでしたので確認させていただきました。可能性は消えてないということでしょうか。

(市長)

- ・すべての可能性があるという状況ですので、最終的にどういうところに決めていくかということです。12月31日の期日があり、急ぎ議論していますので、それほど時間をかけず決めていきたいと思っています。

(質問)

- ・期日ギリギリに出すことはないと思いますので、今時点の目途はありますか。

(スポーツ課長)

- ・アジアリーグのチェアマンと情報共有しながら、期限も含めて相談しているところです。

(質問)

- ・コロナ禍にあっても結果を踏まえなければならないという話がありました。現状プロスポーツへの支援事業の補助の仕組みがありますが、これを厳格化するなど市のルールを変えることは考えていますか。

(市長)

- ・そこまでは相談していませんでした。支援してこういう結果になったことは重く受け止めなければなりません。経営の課題をどれだけスポーツ支援という市の仕組みと合致させるのかは難しい問題だと考えています。行政の事業は単年度でどういったことを行っていくかを決めて進めていくものですのでご理解いただきたいと思っています。そのうえで、これから方針を決め、厳しい環境の中でもどのように進めていけるのか、サポートできるのかを考えていけるような行政体でなければならないと思っています。

(質問)

- ・ 4、5か月この話が続いていますが、ここまで話がこじれた原因は市長としてどのように見えていますか。

(市長)

- ・ いろいろなやり取りの中の事もありますので、私はそこまで言えるものではないですが、協定破棄になったのはトップの方と連絡が取れなくなったという一点のみです。大変な状況の中でもどのようなことができるのかについては、地方自治体として力不足なことはありますが、向き合いながら進めていける環境であれば、いろいろなやり方があったと思います。これから前に進めるためにも、お互い信頼を持って向き合いながら進めていくような関係を作っていくことが重要だと思っています。氷都くしろとして純粋に皆さんアイスホッケーが大好きで、負担してでもリンクを維持するというマインドのある地域ですので、その原点を大事にしていければ、道が開けると思い取り組んでいるところです。

(質問)

- ・ JR釧路駅の高架化に関連した市の再整備事業について、市民の意見を聞くワークショップが始まりますが、市長としてワークショップでどのような議論を望んでいるか、期待しているかお聞かせください。

(市長)

- ・ まちづくりですので、市民の方、特に若年層の方に、これから産まれてくる子供たちにどのような環境を提供できるのか、どのような街にしていきたいのかについてお話しいただき、共有していくことが重要だと考えています。私も市政懇談会などで話をさせていただき、市民のご意見を聞いていく中で、あわせて市民の定義の話をしています。今いる市民も重要ですが、過去の街をつくってきた方やこれから産まれてくる子供たちも市民です。声を聞けない以上、過去の歴史を踏まえていながら先々にどのように思いを馳せるのかということが市民の意見を聞くということと話をさせていただいています。今マルかバツかという話ではなく、どのようなまちづくりを今進めて、次の世代にどのように引き継いでいくのかという議論を加速させていきたいと思っています。この観点でワークショップを進めていければと考えています。

(質問)

- ・ 今回はごく一部の市民の方に深く意見を聞く機会だと思いましたが、一方で市民の方には高架化の必要性や中心部の再整備に懐疑的な方も一定数いると思います。市民全体の理解促進のために今後どのような取組をする予定ですか。

(市長)

- ・ 市民の定義を公の場面でずっと話をしながら進めていて、物事を決定するのは今の方々ということはその通りです。懐疑的ではなく、この街をどうしていきたいのかについて我々も話を聞かせていただきたいし、我々も話をしたいと思っており、しっかりと議論していければと思っています。皆さんもぜひ考えていただければと思っています。

(質問)

- ・ あらためて市民説明会を開くことは考えていますか。

(市長)

- ・ まちづくりですから、我々は考え方を示し、いろいろな方から意見をもらい、それに対して説明していくことは必要なことですから、市が開催するのか他の団体から呼ばれるのかはありますが、私は機会があれば説明したいと思っています。

(都心部まちづくり担当部長)

- ・ 今年度の事業はワークショップとなります。

(質問)

- ・ 前回の会見で、空調設備の調査を行っていると言っていましたが、結果は公開されていますか。また、空調設備導入の市長の考え方をお聞かせください。

(市長)

- ・ 9月11日に北海道市長会から緊急要望しました。現在予算編成の作業を進めていますが、予算案が確定するのが1月になります。その間、様々な議論が出てくると思います。そこを念頭に置きながら、釧路市は学校を含めた公共施設の状況を取りまとめましたが、まだ庁内作業の段階です。

(質問)

- ・ まとめ次第どうするか決めるということですか。

(市長)

- ・ 予算との関係が出てきますので、1月に向けてということになります。